

平成25年度第1回山口県高齢者医療懇話会（会議録）

日時 平成25年10月31日（木）
午後1時30分～午後3時
場所 山口県後期高齢者医療広域連合大会議室
（山口県自治会館4階）

【出席者】

出席委員：田中委員（会長）、西川委員、堀委員、中嶋委員、小山委員、天艸委員、大嶋委員、石田委員、田中委員、阿浜委員

広域連合事務局：長田事務局長、福永事務局次長、横山総務課長、豎島業務課長、近藤総務課長補佐、梶山業務課長補佐、村岡賦課徴収係長、神本資格電算係長、工藤医療給付係長、津田主任、和田主任
藤川主任主事

欠席委員：松尾委員、萬委員

1 開会・事務局長挨拶

新しい委員の皆様には、委員就任を引き受けていただき感謝している。我が国の社会保障制度のあり方をめぐっては「社会保障制度改革国民会議」において議論が重ねられてきたが、後期高齢者医療制度については「創設から5年が経過し、現在は十分定着しており、現行制度を基本としながら、実施状況等を踏まえ、必要な改善を行うことが適当である」との認識が示されている。今後も制度が継続するという方向性が示されたとの認識に立ち、国の動向を注視しながら適切に対応したいと考えている。本日は、後期高齢者医療制度の状況を中心に説明させていただく。忌憚のない御意見をいただきたい。

2 会長挨拶（会長：田中耕太郎委員）

後期高齢者医療制度は後期高齢者のみならず現役世代と支えあいながら成立している仕組みである。今回は現役世代の加入している保険の代表である保険協会および保険組合から新しい委員を迎えた。委員それぞれの立場から忌憚のない意見をいただきたい。

3 テーマ

「後期高齢者医療制度について」

- 事務局から資料1「後期高齢者医療制度の概要」、資料2「後期高齢者医療制度の状況」、資料3「ジェネリック医薬品について」の内容について説明

質疑応答

Q 医療費適正化の観点から、レセプト点検の状況や効果額についてお伺いしたい。目標値などを設定して行っているのか。

A レセプト点検については国保連に委託している。介護保険との給付調整については国や会計検査院から指導があり、今年の7月から再審査やレセプト返戻を行うよう改められているところである。山口広域連合独自の点検は行っていない。
財政効果については、被保険者1人あたり効果率は0.13%、金額で1,238円となっている。

Q 他の広域連合で保険者チェックを外部委託し独自に行っているところはあるのか？

A 若干あると聞いている。

Q 負担割合について、すでに1割の人は今後負担割合が増えることはなく、これから後期高齢者医療制度に加入する人から順に2割負担になるという認識でよいか。

A もともとの負担割合は法律で2割と決まっているが、税金投入により1割になっているのが現状である。どういう風に1割から2割に戻すかが難しいところである。認識として75歳以上は1割負担ということによいと考える。

Q 介護保険との横のつながりはあるのか？医療と介護の連携が取れていないように思える。システム等を使った医療と介護のマッチングへの動きはないのか。

A 介護と医療の連携は実際にはない。マッチングへの動きも今のところは把握していない。

Q 健康診査について、受診率が低いのはなぜか？市町によっても開きがあるのはなぜか？健康診査の項目はどの程度のものか？

A 健康診査を受診しない被保険者の多くがすでに病院にかかっているためと考える。地域差についてははっきりとした原因はない。都市部もしくは農村部で傾向があるわけでもない。健診項目は基本項目に貧血検査を加えている。健康診査には保険料をあてており、項目を増やすと保険料にも影響が出かねないため慎重に検討する必要がある。人間ドックは国からの補助金で行っているが、現在は萩市と平生町のみ実施している。

Q ジェネリック医薬品差額通知書の送付に対する費用対効果は？

A 費用額は国からの補助金込で400万ほどであり、通知件数は4千件弱である。効果はあると考えているが思ったほどは伸びていない。今年度はまだ実施していない。

- Q ジェネリック医薬品の使用率について、5年後に目標の60%を達成できるのか、医療現場の立場からは難しいと思うがいかがか？
- A ジェネリック医薬品使用率60%についてはあと6年ほどで達成するのではないかと思う。差額通知については、現在は県や医師会と取り決めた条件にあう被保険者のみに通知している。今後目標を達成するために条件等について協議する必要もあると考えている。

主な意見

- 後期高齢者医療制度ができてから現役世代の保険者拠出金負担が約4億円ととも増えている。負担が増えすぎて解散に追い込まれている保険者もいる。若者の負担も限界にきている。この現状を知っておいてもらいたい。被保険者の負担割合は2割にしてもらわないと制度がもたないと思う。
- 医療の高度化・高齢化などにより先進国では経済の伸びを超えた医療費の伸びが続いている。ジェネリック医薬品などの医療費の負担を抑えるための工夫をすることも大切だし、増加する医療費について誰が負担するかというところは難しい問題である。現役世代と高齢者間の対立になってもつまらないが、現状の制度の中でどういう風にしていくべきか知恵を絞ることが重要になってくる。
- 患者が薬の代金を全額負担するわけではないところから、放っておくと医師は価格を意識せずに薬を処方してしまうだろう。結局、その分の負担を被るのは保険者なのでやはり保険者からの働きかけは必要だと思う。

4 閉会

会長より閉会を宣言